

生涯教育を 考える。

県下の社会教育講座を訪ねて

ママさん特派員 田中昌子さん



物や情報が溢れ、技術革新がどんどん進む中、私たちの心もそれとともに豊かになっていくのでしょうか。
天祥や物差しでは計れない私たちの学習欲とは…。県教育委員会が提供している各種社会教育の講座に向いて話を聞いてみました。

＜高齢者大学＞

昭和五十四年開講
毎年九月・十二月、約二十五講座
会場 県立江津高校
六年間の受講延人員九二名

織畑純也さん(六十一歳)
歴史コース第六回生

私共は社会とのつながりの中で自己を叱咤激励しながら生きている時生活に張りを感じるのではないですか。

ところが、男の場合、定年退職で急に仕事から離れると糸がプツリと切れるように生活の張りをなくしてしまうものです。私も実はそうでした。そんな時、新聞広告でこの講座のことを知り、受講してみました。元来、歴史の本を読むのが趣味でしたが、いざ講義を受けてみると知らないことがまだまだ多いことを身にしみて感じましたね。

特に、熊本の歴史、文学に関する講義には思わすうなることもあり、興味深いものでした。講座の期間をもっと長くして欲しい。

定年シヨックから抜け出すための ひとつのステップにも なります。



高齢者大学

いとが、テクノなど熊本の新しい動きを知る講義も取り入れて欲しいなど要望したいこともたくさんありますが、まずは、多くの方にこの講座の存在を知ってもらいたいですね。

講座の卒業生で自主的な 勉強会組織をつくっています。

＜婦人大学講座＞

昭和五十五年開講
毎年七月・九月、約十七講座
会場 県立女子大学
五年間の受講延人員七〇四名

内古閑陽子さん(四十五歳)第一回生
五年前のことですが、子供の成長に伴い、なにか自分を取り残されていくような寂しい気持ちになっていた時、たまたまラジオでこの講座の募集を知り、応募しました。

講座の内容も多彩で、これまで家庭内のことはばかりに目がいていた私の視野を広げるきっかけとなりました。

家族団らんの話もそれまでは子供たちの話ばかりでしたが、私も講義で話を聞きながら、話題に幅が広がりましたね。

もう一つ良かったのは、同期の受講者がすっかり意気投合して、会費制で自主的な勉強会を組織したこと。内容は、年数回の講演会参加や、史跡めぐり、テーマをもった勉強会などで、主婦として一般教養

県政ルポ

ママさんの

子供連れで気軽に参加できる 雰囲気づくりも大切ですね。



を高めていこうというものです。学習のきっかけは行政側から出されたものでしたが、六年目を迎えた今では県婦人大学同窓会として立派に一人歩きしています。

＜広域社会教育モデル事業＞

昭和五十九年度、南阿蘇セミナー 地域指定、高森町、白水村、長陽村、十講座
受講者合計百六十名、今年度七月から湯前泊線セミナーとして実施

久保田博子さん(三十七歳)長陽村在住
郡部に住む私たちはどうしても都市部に比べて学習の機会に恵まれていません。このセミナーへの参加は人に勧められたものでしたが、阿蘇の神楽を見たり、野草についての知識を深めたり、地元について知らないことを改めて学ぶ大変良い機会となりました。
残念なのは、こういう場に若い人の参加が少なかつたことです。子供

社会情勢を学ぶ ため働き盛りの男たちが 結集して勉強会を つくりました。

＜七城塾＞

七城町公民館活動、昭和六十年三月開塾、青壮年層五十一名でスタート。

を連れて気軽に参加できる雰囲気が欲しいですね。次の機会には、友達に「子供連れでもおいで」と声をかけようと思っています。
豊かな老後のためにも、特に専業主婦は、「何でも学んでやろう」という意欲が一番大切だと思います。この南阿蘇地方にもいろんな学習の機会がつけられると嬉しいです。



七城町公民館内で。

テクノポリス指定地域では、既に活発な地域の勉強会が進められています。私たちの町は指定外の地域ですが、このままでは、社会の進展に取り残されてしまうのではないかと不安の声が自然に輪をひろげていきました。

そして、この三月、「七城の町づくり」を目指す自主学習グループとして誕生したのが「七城塾」です。農業、商業、建設業…、様々な仕事をもつ三十代から四十代の働きざかりの人たちが集まりました。

これまでも社会教育事業は行われてきましたが、会費制で自主的な運営によるものは初めてのことでした。内容は月一回、講師を招いて国際化情報化といった新しい社会の動きをテーマに講義してもらい、それをもとに地域の問題も含めて活発な話し合いを行います。

女性の応募者が一名もいなかったのは少々残念ですが、郷土の発展の原動力になろうとする「中年(?)志士」たちに町民の大きな期待が寄せられています。



七城塾

取材に応じてくださった方々は、どなたも幅広い興味をお持ちのようで、「実際のお年よりずっと若い」という印象を受けました。

生涯教育の効果は、今日、明日に目に見えてくるものではありませんが、長い間の積み重ねが心を豊かにしていくのだと思います。次まず、学習のきっかけを掴む。次に継続させる。あとは自主的に学習の場をつくる。この三つが大切な過程だと思いました。

ところで、取材後、六月から南阿蘇で六町村合同のセミナーが開講されました。実は、去年、私も県主催の南阿蘇セミナーの閉講式に出席しましたが、受講者の方々は異口同音にこれからも継続してほしいと話されていました。この熱意が新しい形の合同セミナーとして実を結んだのだと思いますが、今後も県内各地で生涯教育の場がいろいろな形で生まれてくることを切に願います。